

平成26年度 徳島県立ひのみね支援学校 学校評価計画

徳島県教育基本目標	『とくしまの教育力を結集し、未来を創造する、たくましい人づくり』～県民とともに考え、ともに育むオンリーワン教育の実現～	
学校経営基本方針	「三つの保障」「二つの指導」「一つの約束」 三つの約束：「学習の保障」、「安全の保障」、「人権の保障」 二つの指導：「人間性」と「専門性」の融合、「規律と礼節」 一つの約束：「地域や保護者に開かれた学校」	
本校の教育目標	「徳島県教育振興計画」に基づき、児童生徒一人一人の個性と人権を尊重し、社会参加と自立の促進に向けて、自己実現に努める心豊かな人間を育成する。	
本年度の重点目標	社会参加と自立の促進に向けて、3つの「I」を三位一体で推進する。 1 ICF（国際生活機能分類）の理念に基づく障がい児の理解と啓発の推進 一人ひとりの児童生徒の実態を把握し、具体的な指導内容を設定する。そして、キャリア教育プログラムの推進を図る。 2 ICT（情報通信技術）の推進による外部の専門家を活用した授業改善 授業の中でICTを効果的に活用し、指導方法の改善を図りながら、児童生徒の学力向上につなげていく。 3 ISO（新学校版環境ISO）の推進を通じたESD（持続可能な開発のための教育）への取組 ESD（Education for Sustainable Development）に取り組む中で、他者・社会・自然環境とつながり、かかわる力を育成する。	
	平成26年度末総合評価	平成26年度末総合評価
		次年度への課題

し、職業的自立に向けて基盤となる能力や態度を身に付けさせる。

【高等部】

- 職業的自立に向け、生活に直結した知識を習得し、実生活で活用させる。

②時刻・時間の指導ではスモールステップで目標を示し、自信を持って取り組めるように指導する。

【中学部】

- ①国語では振り返りシートを作成し、毎時間学習の振り返りを行う。
- ②計算機を用いた指導を継続的に取り組み、買い物学習を年5回以上実施する。

【高等部】

- ①複数の教員と面接練習を行い、あらたまった場での言葉遣いに慣れるようにする。事前にチェックリストを作成し、自己評価や他者評価の機会を作る。
- ②言葉遣いや金銭の指導では、学校で学んだことを校外で実際に使う機会を設定する。

<評価指標>

【全学部】

- ・教員アンケートより実態把握が深まったという回答を80%以上得る。

【小学部】

- ①絵カードや単語カードを参考にしながら、自分で三語文を作り、発表する。
- ②時間割表での時刻の読み取りや時計の読み取りテストの正答率を80%以上にする。
- ③時計を見ながら時間内に活動できることを80%以上にする。

【中学部】

- ①漢字検定8級の漢字の聞き取り問題の正答率を60%以上にする。
- ②買い物学習等で計算機を

【中学部】

【高等部】

<評価指標の達成度>

【全学部】

【小学部】

【中学部】

		<p>携帯し、買い物の総額や税込み計算の正答率を80%以上にする。</p> <p>【高等部】</p> <p>①敬語の使い方を習得し、「達成度テスト」で正答率を90%以上にする。</p> <p>②面接練習で適切な言葉遣いをする事ができる。</p> <p>③消費税や割引の計算の正答率を計算機を使って90%以上にする。</p> <p>④修学旅行や校外学習の会計簿管理を自分で記入し、金銭管理をする。</p> <p>⑤郵便局や銀行などの公共施設の利用の仕方を知り、自分で出金、入金、振り込みができる。</p>	【高等部】			
<p>【中学部】</p> <p>○個別の指導計画の目標が示分等がある。</p>	<p>○個別の指導計画の目標が明確・確実・客観的に評価されている。</p>	<p>〈活動計画〉</p> <p>①平成24年度作成の本校の個別の指導計画チェックシートに書き方例等を加える。</p> <p>②ケース会議での協議・共通理解内容を示したマニュアルを作成する。</p> <p>〈評価指標〉</p> <p>・中学部教員アンケートで、ケース会議が充実し、明確な目標を立て、客観的な評価がとれている。よき回答を80%以上得る。</p>	<p><活動計画の実施状況></p> <p><評価指標の達成度></p>			
<p>【全学部】</p> <p>○修学旅行の在り方を見直す必要がある。</p>	<p>○普段の教育生活の延長上での活動の拡大を基本とした修学旅行計画を計画する。</p>	<p>（活動計画）</p> <p>①修学旅行の在り方について各学部で年間3回以上協議する。</p> <p>②修学旅行実施検討委員会を年間5回以上実施する。</p> <p>（評価指標）</p> <p>・教員アンケートで、普段の教育生活の延長上での活動の拡大を基本とした修学旅行が計画されたという回答を80%以上得る。</p>	<p><活動計画の実施状況></p> <p><評価指標の達成度></p>			

* 「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：あまり達成できなかった D：全く達成できなかった

重点目標 2 ICT（情報通信技術）の推進による外部の専門家を活用した授業改善					
自己評価				学校関係者評価	次年度への課題
重点課題	重点目標	活動計画と評価指標	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策
<p>【支援・研究開発部，教育推進部】</p> <p>○ ICTについての理解では、「まあできていない」と答えた教員が多く，ある程度はわかっているつもりでも，十分に理解していると感じていない教員が多い。[アンケート結果より]</p> <p>○ ICT機器を授業で使っている教員は少ないが，「たまたま使っている」と答えた教員が多く，積極的に活用している状況ではない。[アンケート結果より]</p>	<p>○ ICTやICT機器についての理解を深め，授業への積極的な活用を推進し，授業改善につなげる。</p>	<p><活動計画></p> <p>①外部専門家の知見を活用し，ICT機器を活用した肢体不自由児に対するコミュニケーション支援の在り方についての研修会を持つ。</p> <p>②e-ラーニングを活用した研修を2回以上行い，ICT機器やその活用法についての理解を深める。</p> <p>③授業への導入を進め，事例を紹介する機会を2回以上設け，教員間での情報交換を行う。</p> <p><評価指標></p> <p>①アンケートによる評価で，ICTについての理解が，「できている」「まあまあできている」を合わせて90パーセント以上，「できている」を40パーセント以上にする。</p> <p>②ICT機器を授業で，「よく使っている」「たまに使っている」を合わせて90パーセント以上，「よく使っている」を40パーセント以上にする。</p> <p>③ICTを活用することで授業改善を図ることができたという評価を60パーセント以上得る。</p>	<p><活動計画の実施状況></p>	<p>総合評価</p>	
			<p><評価指標の達成度></p>	<p><評定></p> <p>-----</p> <p><所見></p>	

* 「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：あまり達成できなかった D：全く達成できなかった

重点目標3 ISO（新学校版環境ISO）の推進を通じたESD（持続可能な開発のための教育）への取組					
自己評価				学校関係者評価	次年度への課題
重点課題	重点目標	活動計画と評価指標	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策
【学校生活部】 ○新学校版環境ISOの活動を推進する必要がある。	①新学校版環境ISOの活動の推進と見直しを実施する。 ②保護者と連携した活動を充実させる。	<活動計画> ①-1新学校版環境ISO推進委員会を実施し、計画や活動内容について確認・協議する。 ①-2管理職による内部評価を実施する。 ②-1ペットボトルのキャップ集めのリサイクル運動を、保護者と連携して実施する。 ②-2学校周辺のゴミ拾いの活動を、児童生徒・保護者・教職員が協力して実施する。 <評価指標> ①-1新学校版環境ISO推進委員会を学期に1回実施し、計画や活動内容について確認・協議する。 ①-2管理職による内部評価を年2回（9月・2月）実施する。 ②-1ペットボトルのキャップ集めのリサイクル運動で、毎月3Kg以上を回収する。 ②-2学校周辺のゴミ拾いの活動を各学部で年1回以上、児童生徒・保護者・教職員が協力して実施する	<活動計画の実施状況> <評価指標の達成度>	総合評価 <評定> ----- <所見>	
			<活動計画の実施状況> <評価指標の達成度>		
【高等部】 ○地域社会と連携した環境学習活動を推進する必要がある。	○生徒が主体的に地域社会のリサイクル活動に取り組む。	<活動計画> ・生徒が呼びかけて資源ゴミを収集し、処理をして近隣の資源ゴミ回収施設に持って行く。 <評価指標> ・資源ゴミの回収活動を年間5回以上実施する。	<活動計画の実施状況> <評価指標の達成度>		

* 「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：あまり達成できなかった D：全く達成できなかった